

【平成18年度入学式】

日高学長式辞 — 「社会の諸問題を解決する人材であれ」



〈以下要旨〉

大学は最高学府だと言われてきました。最近、この最高学府の意味内容が変化しつつあります。大学は高等教育機関であり、深く真理を探究し、専門的な知識やスキルを教授する場です。この大学の中心的部分が変容しつつあるのではなく、高等教育の機能が多様なものになりつつあるのです。

大学教育は、エリート教育からマス教育、そしてユニバーサル教育へと移行してきました。18歳人口の約50%が大学に進学する状況をユニバーサル教育と言いますが、日本の今日の状況もこの段階に入っています。大半の若者が大学教育を受ける機会に恵まれることは決してマイナスではなく、知識基盤社会においては、むしろプラスに機能するものと考えますが、その前提として、従来より大学教育に幅を持たしめる必要があります。

現在、大学教育の個性化を図り、特色を持たせることが求められていますが、これはユニバーサル教育における高等教育の多様化に対応するためです。私学においては、大学創立の原点に立ち戻り、建学の精神を21世紀に生かすという視点から、担うべき高等教育の役割を見定めなければなりません。

専修大学は、この大学改革の荒波の中で、現在、社会知性開発大学として発展を遂げようとしています。21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭において、教育・研究に取り組んでいます。

本学の創立者である、彦根藩士・相馬永胤、薩摩藩士・田尻稻次郎、幕臣・目賀田種太郎、桑名藩士・駒井重格の四先生は、明治維新前後の動乱の中を生き抜き、強靱な精神力をもってアメリカに渡り、コロンビア、エール、ハーバード、ラトガースの各大学で法学や経済学を勉強し、約8年間にわたる留学を終えて、明治13年に専修大学の前身である「専修学校」を創立しました。修得した最新の法学、経済学を日本語で教授するためです。当時まだフランス語や英語で専門教育がなされていた時に、日本語で教育することは、大変なことです。しかし、日本語で教育しなければ、近代法や経済学の考え方を市民レベルに根付かせることは出来ないという思いがあったのです。日本社会における価値観や規範意識を教育によって変動させなければ、日本は近代国家に生まれ変わらないという熱き思いです。本学は、私学としては、法学も経済学も最初に専門教育を行い、五大法律学校の一つとしての地位を得ました。校歌にあるように「世に魁けし我らが大学」なのです。

本学の建学の精神は、「社会に対する報恩奉仕」で表されてきましたが、現在の大学改革に際して、創立者たちが日本の国の形を考え、市民社会の屋台骨を支える有為な人材を専門教育によって育成しようとしたことに光を当てるべきだと考え、現在は21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げています。創立者たちの建学の精神に立ち戻って大学教育の理念を練り直した結論です。

本学は、21世紀において、社会の諸課題を発見しそれを解決していく知的能力を持った人材を育成するとともに、社会の発展の方向性を示しうる知の発信を行おうとしています。高等教育機関としては高みを望み、研究と教育を分断することなく、研究に裏付けられた教育を行い、社会知性を身につけた学生を育てていく所存です。しかも、人間性豊かな倫理観のある人材でなければ、社会知性の開発は実り多いものとはなりません。

大学教育は、人間教育の場であることを忘れてはなりません。本学は、研究と教育の統合を基本としながら、高度専門職業人の養成、総合的教養教育、地域社会貢献など多様な機能を併せ持つことで、社会知性開発大学としての道を歩もうとしています。

専修大学は、私学として誇りうる127年の歴史と伝統を持っています。しかも、社会知性の開発という観点から混迷した今の社会に光を当てようとしています。諸君は、在学中自己発展の基盤を養うとともに、専修人として社会知性の開発に携わる責務を負っています。

大学は、どこの大学に入ったかではなく、何を修得したかが問われます。学部学生であれば、これから

の4年間をどう過ごし、何を体得したかが、30年後の人生を決定します。大学院生であれば、研究分野のど真ん中に深い井戸を掘って密度の濃い研究をすることが、将来の飛躍のバネとなるでしょう。法科大学院生であれば、本学のあるべき法曹像である「社会生活上の医師」としての法曹を目指し、法技術だけでなく法曹倫理を身につけ、人の痛みの分かる法曹になるかどうかを決め手になりましょう。

今後の専修大学の歴史を刻んで行くのは、諸君自身です。語るべき歴史と伝統を持った専修大学で勉学することに誇りと自信を持ってください。一片の輪切りにすぎない偏差値の呪縛を解き放ち、自己の殻を破って、大きな夢を描きましょう。本大学において諸君が人生の羅針盤を見だし、大きく変身してくれることを期待します。

出牛理事長祝辞 — 「自ら問題を発見し、思慮を重ねよう」



〈以下要旨〉

大学は、高度の教育と真理を追求する場であります。したがって学問が尊ばれ、真理が尊重され、そして知識の探求が盛んになされております。自らの責任で学ぶことを建前としております。

単に教授されたことを実践するだけでなく、自ら問題を発見し、その解決に向けて思慮を重ね、熟考する姿勢が必要です。自ら行動を起こさないでいると、得るものが少ないまま4年間を無為に過ごしてしまうことになりかねません。スタートに当たって、物事に積極的に立ち向かう姿勢を身につけてください。

大学が、社会へ踏み出す前の羽を休める場所と謳われた時代は、もう過去のことです。社会は、皆さんが学生時代に培った能力や精神力と、実力に裏打ちされた潜在能力、可能性を見極め評価します。そのような能力や精神力は、日々何かに打ち込み、挑戦するといった姿勢の積み重ねから、自ずと養われるということを忘れていただきたいと思います。

一方、大学は自ら求めるものに対しては、さまざまな受け皿を準備しているところです。本学は、皆さんの知的欲求に応えるべく、万全の準備を整えております。それらの情報や材料をもらすことなく掻き集め、十分に生かすことができるかどうかは、皆さんの心がけによることです。

また、スポーツ、サークル活動やボランティア活動などにも積極的に参加することによって、皆さんのキャンパスライフがより豊かなものになるはずです。そうした諸活動を通じて得られた友人は、生涯にわたってかけがえのない財産になるはずです。勉学に励むと共に、良き友人を早く見つけてください。

大学時代は、豊かな感受性を育み、尊厳ある人格を形成するためにかけがえのない期間です。この困難な時代において大学生活を過ごすことができるという幸福を自覚し、今日から始まる貴重な時間を豊かな感性を持って友と交わってください。時には若者らしく喜怒哀楽のおもむくところ友と語り、肩を組み、互いに感激を味わうということも、大学生活における大きな意義の一つであると思います。

これから本学で過ごす貴重な時間を、一分一秒たりとも無駄にせず、本学の人的・物的資源を十二分に活用して、充実した学生生活を送られることを心から願っております。

ご父母の皆様方にも一言、ご挨拶を述べさせていただきます。

本学に大切なご子女をお預かりすることになりましたが、我々大学関係者は、ご期待に応えるべく、「社会知性の開発」、「学生を基本に据えた大学づくり」を基本理念に据え、すべての教職員が、全力で教育、そして学生生活のサポートに当たらせていただくことをお約束いたします。大学と手を取り合いながら、今後も厳しくも温かくご子女を励まし続けていただきたいと思います。

本学は現在、創立130年に向け、さらに発展するため、さまざまな記念事業に取り組んでおります。生田10号館(仮称)建設を進めており、来年3月に完成する予定です。そのほかにも、教育環境の充実のためにさまざまな改善、改革に取り組んでおります。サテライトキャンパスや第三キャンパスの取得などについても鋭意検討しております。ご支援とご協力をお願い申し上げます。

新入生の皆さんの若い力が、本学の新たな伝統を築く推進力となり、皆さんが21世紀を担う人材に大きく成長されることを期待し、歓迎の言葉といたします。

専大玉名高校長に、久和基利氏

専修大学玉名高等学校(熊本県玉名市)の校長に久和基利氏=写真=が4月1日付で就任した。



「博士」の学位授与

専修大学から3月24日付で次の3氏に博士の学位が授与された。授与式は同日、神田キャンパスで行われた。

(氏名、現職に続き、学位の種類、学位請求論文名)

尹 錫南氏(韓国・建陽大学校日本語文化学科助教授)

博士(文学)「日・韓両国における漢語の研究—同形語形及び意味を中心として—」

新江 孝氏(日本大学商学部教授)

博士(経営学)「戦略管理会計研究」

間嶋 崇氏(広島国際大学医療福祉学部講師)

博士(経営学)「組織における不祥事の組織文化論的分析に関する一考察—A.Giddensの構造化理論を応用して—」

9氏が名誉教授に

専修大学名誉教授称号記授与式が4月5日、神田キャンパスで出牛正芳理事長、日高義博学長ら列席のもと行われ、この3月に退職した9氏に名誉教授の称号記が授与された。



- 榮澤幸二 元法学部教授（在職21年）
- 加藤忠彦 元法学部教授（在職40年）
- 鈴木啓三 元経営学部教授（在職41年）
- 大場國彦 元商学部教授（在職43年）
- 齊藤英三 元商学部教授（在職41年）
- 水谷 弘 元商学部教授（在職31年）
- 大川瑞穂 元文学部教授（在職32年）
- 平木 隆 元文学部教授（在職46年）
- 森 克美 元ネットワーク情報学部教授（在職36年）

新任教員25人を紹介

(敬称略)

氏名	職名	主な担当科目
【経済学部】		
岡村 陽子 (おかむら・ようこ)	講師	心理学
角田 真紀子 (つのだ・まきこ)	講師	発達・学習心理学
【法学部】		
小出 鎔一 (こいで・じゅんいち)	教授	刑事訴訟法
東 裕美 (あずま・ひろみ)	講師	英語
伊藤 武 (いとう・たけし)	講師	国際政治史
須加 憲子 (すか・のりこ)	講師	民法
菅原 光 (すがわら・ひかる)	講師	日本政治思想史
西元 宏治 (にしもと・こうじ)	講師	国際法
【経営学部】		
小沢 一郎 (おざわ・いちろう)	講師	現代技術論
齋藤 実 (さいとう・まこと)	講師	健康科学論
【商学部】		
伊藤 和憲 (いとう・かずのり)	教授	管理会計論
奥西 康宏 (おくにし・やすひろ)	助教授	会計監査論
岩尾 詠一郎 (いわお・えいいちろう)	講師	ロジスティクス
鈴木 健郎 (すずき・たけお)	講師	中国語
西居 豪 (にしい・たけし)	講師	管理会計論
山本 真紀 (やまもと・まき)	講師	生命の科学A
【文学部】		
川上 隆志 (かわかみ・たかし)	助教授	日本文化特殊講義II
馬場 純子 (ばば・じゅんこ)	助教授	社会福祉論(介護・ケア論)
山田 健太 (やまだ・けんた)	助教授	マスコミュニケーション概論
大久保 街亜 (おおくぼ・まちあ)	講師	認知心理学
澤 幸祐 (さわ・こうすけ)	講師	学習心理学
野口 武悟 (のぐち・たけのり)	講師	図書館資料論
平田 大輔 (ひらた・だいすけ)	講師	健康科学論
【ネットワーク情報学部】		
飯塚 佳代 (いづか・かよ)	講師	ファイナンスプランニング
神白 哲史 (かじろ・てつし)	講師	英語